

| 第 5 回川口市行政評価外部評価委員会 |                                                                             |    |            |     |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------|----|------------|-----|
| 日時                  | 平成 29 年 3 月 21 日 16:00～17:30                                                | 場所 | 第二庁舎 地階会議室 |     |
| 評価委員                | 石川委員長、入野委員、隅内委員、竹ノ谷委員、團野委員、<br>長谷地委員、増田委員、矢野委員<br>(欠席：佐藤副委員長、遠山委員)          |    | 傍聴者数       | 1 名 |
| 事務局                 | 岩城企画財政部長<br>企画経営課：石井課長、藤田課長補佐兼係長、森主任、長部主任、秋山主任<br>野村総合研究所：山口副主任研究員（コンサルタント） |    |            |     |

| (1) 平成 28 年度行政評価外部評価の総括                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○事務局より資料 1「平成 28 年度川口市行政評価外部評価委員会評価対象事業総括」及び資料 2「川口市行政評価外部評価委員会に対するご意見及び回答」について説明</p> <p>○質問・意見</p> <p>委員：外部評価委員会の意見が各事業の予算に反映されたかどうかは総括表で把握できるが、定性的な意見に関しては反映されているのかが分かりにくい。</p> <p>例えば、交通災害共済事業は最終的には抜本的に見直すということだったと思うが、平成 30 年度に着手できる準備体制は考えられているのか。</p> <p>事務局：市長に対しては、加入率の低さも伝え、市としては抜本的改善が必要と伝えている。市長からは、高齢者の加入率が高いので、時間をかけても良いので慎重に進めてほしいと指摘されている。また、交通災害と学童災害については基金の使いみちも規定されている。拙速な対応は議会から承認されないため、平成 29 年度は従来通り実施する。改善には時間をいただきたいと考えている。</p>                                                 |
| (2) 3 ヶ年のまとめと成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>○事務局より、資料 3「平成 26 年度から平成 28 年度までのまとめ」について説明</p> <p>○質問・意見</p> <p>委員：個人的に思うに、川口市の行政評価の 3 つの目的の観点で見ても、まだ合格点には至っていないのではないかと。資料 1 の総括を見ていると予算削減に関心が集まりやすいと感じた。しかし、予算を削るだけでなく、どれくらい効果があるのかを見る必要がある。費用対効果の考え方である。</p> <p>委員：共済事業に関しては、廃止すべきという議論ではなかったと認識している。民間のシステムを活用すればもっとコストをかけずに大きな成果を得られるのではないかとということではなかったか。</p> <p>委員：外部評価委員会をやってみて、頼りになるのは現場（担当課）からの資料である。事業の KPI は何なのかということを、担当部署で練ってもらいたい。ぜひ来年は考えてもらいたいと思っている。</p> <p>委員：外部評価の取組は平成 22 年から始まったということを初めて知った。過去の経緯を当初に説明いただいていたら、もっと理解できたかもしれない。</p> |

委員：今年度からは事業仕分けに近い評価となり、嬉しくもあり戸惑いもあった。外部評価結果は当初から予算に関係したものではなかったのか。

課長：試行を重ねてきた結果として、現在のような評価形式となっている。

### (3) 今後の行政評価について

#### ○事務局より、今後の行政評価について説明（参考資料）

#### ○質問・意見

委員：以前、行政評議委員というものをやった記憶がある。そこからも含め、委員を務めることにより自分自身も勉強になった。また、行政は企業とは異なり、数値では図れない部分があることも分かった。しかし、評価しなければ、安心安全なまちづくりは達成し得ないだろう。

委員：評価対象事業の選定の仕方に関しては疑問がある。事業選択の方法が重要なのではない。選ばれなかったものにどれだけ重要なものがあるのかは分からない。この点を重視し、選定方法を明確にすべきではないか。

委員：3年間関わってきたが、最後の1年間は非常に分かりやすく、市政にとっても良かったと思っている。これからは、こちら側から評価する事業を選べるような制度があると尚良いのでは。なにか方法が検討されると良い。

### (4) その他

#### ○各委員から今年度の外部評価委員会及び3ヵ年を通した感想・意見などを発表

委員：本日の討論を聴きながら、委員だけでなく市の職員も一生懸命やっていると感じた。今後もこのような機会があれば関わっていきたい。

委員：評価シートも進化を遂げていると感じている。次年度に評価を行う委員にエールを贈りたい。

委員：企業をやっていると数値でPDCAが出来るので良いが、行政は数値では表し難い。また、少数派をないがしろにも出来ない。ただ、行政のご苦労も分かるが諦めることなく頑張っていて欲しい。5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動等も点数化していくという流れがあるようだ。定性的なものにも評価のモノサシが必要ではある。

委員：初めはやり方が分からなかったが、今年度は自分の意見が言える場だったと思う。評価委員にならなければ、興味が沸かなかった事業もあった。他の委員の評価に対する視点の多様性も勉強になった。意見が反映されて行政が良くなればと思う。

委員：我々は経営者目線でみているが、行政は我々の原理とは異なるところで動いている。また多くのことをやっていると言うことがわかった。私は他に協働推進委員もやっているが、この委員会の中で、今回評価の対象だった盛人大学の問題も取り上げられていた。その中で外部評価委員会のコメントも紹介されていてつながりを感じた。無味乾燥ではなく、他にも影響していることがわかり嬉しかった。川口市の人口が増えている中、今回は高齢者の問題を扱った。前年度は保育所や児童館等に関わった。川口市に若い世代が入ってくるような施策をどんどんやって欲しいと思う。

委員：外部評価委員となって意見を申し上げたが、行政の中ではいろんなことを考えながらバ

ランス良くやっていると思う。しかし、一般市民の率直な意見、行政の判断の難しさもわかった。良い意味でお互いが気付かされる場と感じた。

委員：自分の興味関心があるものには意見できるが、わからないものには発言が出来ない。なぜこの案件が評価の対象として出てきたのかについては疑問、納得できないということがあった。

副委員長（委員長代理発言）

- ✧ 平成 28 年度の評価については、過去 7 年の経過を知らない人たちは困惑したかもしれない。技術的には評価しやすかったと推測するが、一方、外部評価委員会が担うそもそもの使命についてとまどったと思う。それでも最高の成果であった。外部評価委員会の目的・使命等が達成されたかどうかを踏まえ、次年度の制度設計を行っていただきたい。
- ✧ 他の自治体においても地域に関わる会議に参画しているが、地域性は会議中の論点になりやすく、担当課にとって地域性は非常に有効な論点であったと思う。
- ✧ 外部評価委員会のレベルは年を経る毎に難しくなった。市は毎年レベルアップするが、委員レベルは変わらないためである。しかし、今年度は若干緩和した感がある。
- ✧ 今後は使命を明確に、仕組みをシンプルにすることが必要だろう。全ての委員に共通するが、若手が少ない。例外的に若い人も多く、選挙権年齢が引き下がったこともあり一層の前進を臨む。

委員長

- ✧ 原点に立ち返る必要がある。全体の要綱、行政活動の改善の仕組みが行政評価の一番目の目的である。総合計画に基づく行政活動の効率性や効果を市民に公表し、情報の共有を行う仕組みにするというものである。
- ✧ 計画・予算と評価が相互に連動した仕組みの構築を目指す必要がある。
- ✧ 外部評価委員会の目的は、客観性と透明性、効率的な市政運営を支援すること。外部評価の客観性と透明性がどうなったのか、市民との情報共有がどのように達成されたのかを見る必要がある。これについては、事業担当課が真摯に対応していた。評価調書も改善されている。こうしたことから、客観性や透明性は前進している。市民と行政との情報共有という問題について、委員になってわかったという感想であった。一朝一夕に出来るものではない。行政として広報、HP に掲載する、ということだけでは市民には共有できない。実質化するための具体的取組が必要である。
- ✧ システム構築について、市の予算に反映させるということについて重点を置いてきた。事務事業や施策の決定は市長や議員によるところが多い。評価を示した後であっても、その後に市長や議員に選択の経過を経るということが宿命としてあることは認めざるをえない。
- ✧ PDCA があるが、これは先程あったように、企業等で品質管理のポリシーが共有されている場合は良いが行政や政治では難しい。A（改善）や、P（計画）を立てる際には政策決定という政治行政という独自の分野があることを念頭に置く必要がある。今後の行政評価については、例えば補助事業は受益者が誰かを踏まえてやるべきである。
- ✧ また、調書の改善では、担当課の負担感を減らすことも重要である。
- ✧ 評価する事業を選択するという意見もあったが、市民が評価対象事業を選択することで

もよいのではないか。